

きれいな水は どこから来るの？

「水の惑星」といわれる地球。しかし、淡水は全体の約2・5%で、ほとんどが南極や北極の氷のため、私たちが使える水は約0・01%しかありません。

これらの水は、海や川から蒸発して空に昇り、雲になります。そして、雨や雪となって高萩の地にも降り、花貫川を下り海に戻ります。

たえず地球上を巡っている水。太古の昔から変わることなく繰り返し

れるこの大きな循環の中で、私たちはその途中の姿である水を利用して

いるのです。

料理に使ったり、手を洗ったり、生活に無くてはならない水。蛇口をひねれば出てくる

ことが当たり前に

なっていますが、

水は自然界からの大切な恵み。

今回は、水が安全安心に飲めるようになるまでを紹介いたします。「水の旅」をたどってみましょう。



水の旅

～飲み水になるまで～



取水口から取り入れた水は、沈砂池で砂や小石を取り除き、着水井を通過して沈殿池へ送られます。



沈殿池



フロック形成池では、小さなごみ(浮遊物)を塊(フロック)にする薬品を入れ、混ぜ合わせます。その後、凝集沈殿池へ。



フロック形成池



凝集沈殿池では、ごみの塊(フロック)を沈めて取り除きます。



上層の透き通った水は、ろ過池へ。



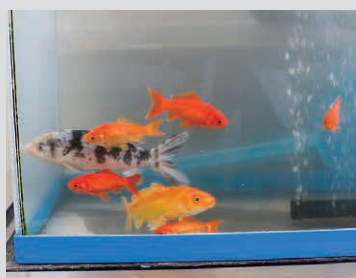
ろ過池では、目に見えない小さなごみを砂の層に通して取り除きます。ろ過された水は塩素で消毒し、配水池へ。



凝集沈殿池



ろ過池



1時間に1回、水質検査や匂いのチェックなど24時間365日体制で、管理を行っています。また、安全な水であるかどうか、金魚も監視の役割を果たします。

24時間の管理体制

